

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第9回）議事概要

日時 令和8年（2026年）2月12日（水）14:00～15:40

場所 宝塚市役所第二庁舎 会議室A・B

出席者

＜まちづくり協議会＞

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	井手 義明会長	●	
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	溝本 直人代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれが丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	赤阪 俊一会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長		
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長	●	
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

＜その他＞

市民交流部 藤田部長、新城次長

市民協働推進課 久住係長、押川職員他

総合防災課 村尾職員

宝塚市社会福祉協議会 地区担当支援課 前菌課長他

宝塚 NPO センター 平岩氏

議事概要

1. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和7年度・第8回）議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、修正後、ホームページへ公開することが承認された。

2. 市総合防災訓練（避難所運営訓練）のご案内（総合防災課）

総合防災課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

3. 地域活動きずな研修 アンケート協力のご依頼

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア この様式をデータで送付いただくということは、それに記入してデータで回答すればいいということか。

イ（市民協働推進課）そのとおりである。

4. 地域ごとのまちづくり計画

(1) 「推進シート」及び「対話シート」の状況報告

市民協働推進課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア（未成）タイトルだけ見て誤解されると困るのでコメントさせていただく。「県道西宮宝塚線歩道要望」について、以前から話はあったが、最近NTT宝塚寮の跡地にヤマダストアが出店する予定で、それに伴い宝塚市役所前の交差点で発生が予想される渋滞の解消についての話し合いを行った。宝塚市内では、以前から宝塚歌劇前の交差点と市役所前の交差点がよく渋滞する。昨年11月から県と話し合い、できるだけ市役所前の交差点を通らないように案内板やナビゲーションを変えている。

また「御所下水路監視体制緊急対応体制の確立」について、御所下水路は1つの事例だが、現在宝塚市では、地域で何か緊急事態が起こった場合、どこに連絡するかというと担当課や総合防災センターに連絡する。総合防災センターに連絡しても、おそらく担当課に回される。市民が緊急事態を知らせるための窓口が、担当課に振るのではなくきちんとそこで対応して、庁内で連絡体制を取り、どう対応したのかをフィードバックする仕組みが出来ていないと思うため、下水路だけでなく全てのことに関しての緊急連絡体制と対応体制を市民と市の間で確立してほしいを考えている。

イ（すみれ）対話をつい最近行ったばかりだが、もう公開されているのか。

ウ（市民協働推進課）今回は、推進シートの公開である。対話シートは、内容の確認をしてから公開を予定している。

5. 市民協働推進課からのお知らせ

(1) 協働の事例集更新

- (2)地域カルテ更新
- (3)つながりカフェの開催について
- (4)市民と市長の対話ひろば（2月）の開催について（市民相談課）
- (5)出前講座のご案内・平和を願う市民のつどい開催のご案内（人権平和・男女共同参画）

市民協働推進課より、(1)～(5)について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア 講師派遣の件で、こんな講師の人に来てほしいという希望が出せるのか。また、講師一覧を見せてもらえるのか。

イ（市民協働推進課）担当課に確認して後ほどお伝えする。

⇒【確認結果】講師の一覧はないが、希望するテーマを選んでいただいたら、市が講師を見繕い手配する。もしまちづくり協議会で派遣を希望される場合は、テーマをご希望いただいたら手配可能である。一方で講師の指名もでき、この人の話を聞きたいというようなご希望をお伝えいただけたら、市あるいはまちづくり協議会で調整して講師をお呼びすることもできる。しかし、市の講師謝礼には上限があり、あまりにも著名な方は謝礼の関係で講師派遣は難しい場合があるため、その辺はご了承いただきたい。

6. 宝塚NPOセンターからのお知らせ

- (1)Daisy program～ワタシLab～

宝塚NPOセンターより、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

7. 社会福祉協議会からのお知らせ

- (1)DVD教材によるひきこもり研修会について

社会福祉協議会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。

- (2)クールシェアたからづかの報告について

社会福祉協議会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。質疑応答の内容は以下のとおり。

ア ほっとかへんネット宝塚の総合相談窓口一覧で、うちのまちづくり協議会の区域内に該当する窓口がない。この場合はどうしたらいいのか。また、なぜ該当する窓口がないまちづくり協議会があるのか教えていただきたい。

イ（社会福祉協議会）該当するところがなくても、基本的にはどこに連絡していただいても繋がるようになっている。もともと設置されている施設にご協力いただいております、法人の代表的な事業所を記載しているため、どれくらいあるか今すぐ答えられないが、ここに載ってなくても法人が運営している事業所が100以上ある。宝塚第一小学校区内にどれくらい事業所があるかお調べしてお伝えできたらと思う。

8. グループトーク

市民協働推進課より、標記について説明があった後、各グループに分かれて意見交換を実施した。終了後、各グループから意見交換について以下のとおり発表した。

ア 【A】 担い手づくり

- (ア) まちづくり協議会の現況について、どこも高齢化が進み行事等の担い手がない。また、共働き世帯が多く、コミュニティ活動に専念できない現状がある。まちづくり協議会の中に新しく担い手が入ってくることがほとんどない点も共通している。まちづくり協議会の仕事を担っていただいている人は少なくなっている。同じ人ばかりである現状が見受けられる。
- (イ) まちづくり協議会の代表者選考について、今後どうやってバトンを渡していこうか興味があった。あるまちづくり協議会では、任期が4年と決まっており、必ず次の人にバトンを渡せるような体制を作っている。自治会の中から順番に会長をやっているところもある。しかし、誰も引き受けてくれなければ、そのまま会長を続けているところもあると思う。できるだけ任期を決めて、代表や会長やるのが一番いいやり方だと思う。
- (ウ) まちづくり協議会の今後について、PTAの役員や自治会の会員、老人会の人数も減少している。まちづくり協議会だけでなく、小学校区や自治会のあり方も含めて、現状で今後うまくいくのかどうか見直しが必要ではないか。

イ 【B】 宝塚ブランド

- (ア) 市民がブランドというものに対して無関心であり、宝塚ブランドを考えるのは難しい。宝塚で誇れるものは、六甲、中山、武庫川といった自然があり、芸術・イベントでは手塚治虫記念館があるため、もっと活用したい。また、スポーツ選手が結構輩出されているので、スポーツ選手をもっと盛り上げたい。それから宝塚歌劇が一番有名だが、市民に浸透しているかという点とよく行っている人は少なかった。自治会を巡って公演会をすることはできないのかという話があがった。
- (イ) 市役所に対して、ブランドよりも今はコストカットしか念頭にない状況になっているが、夢描きも一方では必要だと思う。ブランドづくりを意識しながら、真面目に考えていこうという話になった。

ウ 【C】 子どもたちが地域活動で活躍できる機会づくり

- (ア) まちづくり協議会がそれぞれ特色のある子どもたちを巻き込んだイベントを開催している。子どもたちが興味のあるテーマにすると子どもたちも保護者も集まる。自主的に企画できるような状況になると更に発展しやすい。あるいは、子どもたちが作った野菜を販売するようなこともしている。また、地域の高校とコラボしながら、高校生たちがアイデアを出して運営するなどして関わると子どもたちも盛り上がる。
- (イ) 学生参画においては、高校生、中学生のテストの日程や学校の行事予定と調整しながら日程を組むといいと思った。高校生や大学生に手伝ってもらうときに、最近では、探究型の教育を進めている高校が増えているため、高校と連携を取りながら、探究型教育のテーマとして地域活動に関係したものを取り入れることで、代が変わっても繋がりやすいかもしれない。地域にいろんな情報発信をして、協力者を求めていく必要がある。

エ 【D】 お金の稼ぎ方（自主財源の確保）・事業所との連携

- (ア) 自治会やまちづくり協議会で（多く）お金の稼げない。ただ、お祭り等をやる場合に、昔はキッチンカーを呼ぶためにお金を払い、売り上げがなければ保証対応をしていた

が、今は地域によっては、大きな自治会のイベントであればキッチンカーが安定的に稼げるので、逆にキッチンカーに場所代を請求している。また、例えば15万円稼いだら、そのうちの10万円は保証するから残りの5万円の半分を支払ってもらうところもあるので、そういう意味ではお金の稼ぎ方の一つだと思う。しかし、小さいイベントだと難しいかもしれない。

(イ) 会館の有無が地域によって差があるのは問題だと思うが、会館があるところは教室を開いて稼いでいるが、どこも黒字のところはなく、赤字で運営しているのが現状である。教室で収入を増やそうとしても、人が減っているため稼ぎようがない。

(ウ) 売布小学校区まちづくり協議会がやっていた花火のクラウドファンディングでは、お金は入るが半額くらいはクラウドファンディング会社に回収され、加えて寄付してくれた人に対して返礼品を渡すため、潤沢にお金が集まらない部分もある。

9. その他

(1) 宝塚きずな花火

宝塚小学校区まちづくり協議会会長より、標記について周知があった。

10. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の予定について周知があった。